

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向
平成 30 年 1 月

○ 概要

(1) 平成 30 年 1 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 6,275 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）+3.9%）で、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 9,001 円（伸び率+0.0%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,589 億円（伸び率+4.9%）、薬剤料が 4,676 億円（伸び率+3.5%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 859 億円（伸び率+19.7%）であった。（→P.4）

(2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方せん 1 枚当たり薬剤料 5,382 円（伸び率▲1.3%）を、処方せん 1 枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1 種類数 1 日当たり薬剤料の 3 要素に分解すると、各々 2.85 種類（伸び率▲1.1%）、22.5 日（伸び率▲0.2%）、84 円（伸び率+0.2%）であった。（→P.8,9）

(3) 薬剤料の多くを占める内服薬 3,752 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）+91 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 755 億円（伸び幅▲41 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 11 中枢神経系用薬の+36 億円（総額 654 億円）であった。（→P.10）

年齢区分 (→P.10~15)	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,752 億円 (+91 億円)	21 循環器官用薬 (755 億円)	11 中枢神経系用薬 (654 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (551 億円)
0 歳以上 5 歳未満	34.9 億円 (▲0.2 億円)	44 アレルギー用薬 (11.9 億円)	62 化学療法剤 (9.0 億円)	61 抗生物質製剤 (6.0 億円)
5 歳以上 15 歳未満	92.0 億円 (+5.3 億円)	44 アレルギー用薬 (29.0 億円)	11 中枢神経系用薬 (17.9 億円)	62 化学療法剤 (15.4 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,307 億円 (+19 億円)	11 中枢神経系用薬 (285 億円)	21 循環器官用薬 (225 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (201 億円)
65 歳以上 75 歳未満	910 億円 (+4 億円)	21 循環器官用薬 (222 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (163 億円)	11 中枢神経系用薬 (110 億円)
75 歳以上	1,408 億円 (+63 億円)	21 循環器官用薬 (305 億円)	11 中枢神経系用薬 (242 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (181 億円)

(4) 処方せん 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 9,001 円（伸び率+0.0%）で、最も高かったのは北海道（10,855 円（伸び率+0.4%））、最も低かったのは佐賀県（7,657 円（伸び率+0.3%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは愛媛県（伸び率+3.4%）、最も低かったのは滋賀県（伸び率▲2.0%）であった。（→P.27~28）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品薬剤料】 859 億円（伸び率：+19.7%、伸び幅：+142 億円）（→P.36~37）

【後発医薬品割合】（→P.35）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^注	71.9%	+3.6%
薬剤料ベース	18.4%	+2.5%
後発品調剤率	72.2%	+3.2%
（参考）数量ベース（旧指標）	49.4%	+4.5%

注）〔後発医薬品の数量〕 / 〔〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕〕で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.37）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+19.7%	+30.7% (5 歳以上 10 歳未満)	+9.1% (15 歳以上 20 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.4%	20.7% (65 歳以上 70 歳未満)	10.2% (10 歳以上 15 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.38~44）

年齢区分 (→P.38~44)	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	767 億円 (+132 億円)	21 循環器官用薬 (250 億円)	23 消化器官用薬 (107 億円)	11 中枢神経系用薬 (83 億円)
0 歳以上 5 歳未満	6.4 億円 (+1.2 億円)	44 アレルギー用薬 (2.4 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.1 億円)	61 抗生物質製剤 (1.1 億円)
5 歳以上 15 歳未満	14.9 億円 (+3.5 億円)	44 アレルギー用薬 (7.4 億円)	61 抗生物質製剤 (2.7 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.7 億円)
15 歳以上 65 歳未満	262 億円 (+46 億円)	21 循環器官用薬 (73 億円)	11 中枢神経系用薬 (37 億円)	44 アレルギー用薬 (32 億円)
65 歳以上 75 歳未満	194 億円 (+34 億円)	21 循環器官用薬 (80 億円)	23 消化器官用薬 (26 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (19 億円)
75 歳以上	289 億円 (+46 億円)	21 循環器官用薬 (97 億円)	23 消化器官用薬 (50 億円)	11 中枢神経系用薬 (34 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.57~62）

	全国	最高	最低
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,232 円	1,668 円（北海道）	1,016 円（福岡県）
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+15.3%	+21.6%（徳島県）	+9.8%（鹿児島県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	71.9%	82.0%（沖縄県）	63.9%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.4%	22.3%（鹿児島県）	15.6%（徳島県）
後発医薬品調剤率	72.2%	81.2%（沖縄県）	66.3%（山梨都）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	49.4%	59.4%（沖縄県）	44.3%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成30年1月現在の電算処理割合は、処方せん枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。